

Ⅰ 自己評価結果に対する学校関係者評価

【管理職関係：保護者】

- ①Q 1 学校として、スクールミッション、スクールポリシーに基づいた教育活動が実施されている
- ②Q 2 学校として、地域や伝統に根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる
- ③Q 3 生徒の学校生活は充実している
- ④Q 18 学校として、課題を発見し解決に向かい論理的に思考する探究活動が行われている

【管理職関係：生徒】

- ①Q 1 学校として、スクールミッション、スクールポリシーに基づいた教育活動が実施されている
- ②Q 2 学校として、地域や伝統に根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる
- ③Q 3 生徒にとって学校生活は充実している
- ④Q 8 学校として、課題を発見し解決に向かい論理的に思考する探究活動が行われている
- ⑤Q 23 生徒は先生方との関係において思いやりを感じている
- ⑥Q 24 生徒は先生方から高い期待をかけられていると感じている
- ⑦Q 25 学校の活動で生徒が活躍・貢献できる場面があると感じている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
管理職関係	①スクールミッション、スクールポリシーについて 保99 生99 職100	A	スクールミッション、スクールポリシーについて、本校ホームページ上での情報公開、機会のあるごとに生徒や保護者に説明してきた結果、その内容と具体的な取組に対して、保護者（99%）、生徒（99%）、職員（100%）という高い評価を得た。今後も情報公開と細かな説明を継続していきたい。	A	A
	②特色ある学校づくりについて 保93 生98 職100	A	今年度から新設された項目である。保護者、生徒、職員とも90%以上の高評価を得ているが、保護者の評価が他の評価者に対して低い。これは保護者に対して、本校の取組が伝わり切れていない可能性があるため、保護者が本校の取組を理解しやすいような方策を今後、考えていきたい。	A	A
	③学校生活の充実について 保96 生96 職100	A	ここ数年、保護者（96⇒96⇒96%）、生徒（95⇒98⇒96%）、職員（97⇒100⇒100%）と高い評価を維持している。本校が目指す「自己決定する力・学び続ける力・他者と関わる力」の育成や、本校が大切にしている「学びの土壌づくり」が広く支持されたものと捉えている。	A	A
	④探究活動の取り組みについて 保96 生99 職100	A	昨年度より新設された質問項目であるが、保護者（93⇒96%）、生徒（98⇒99%）、職員（100⇒100%）と全ての調査対象者の回答で90%を超える高い評価を得ることができた。令和元年度の文部科学省の指定を受けてから今年度に至るまで、関係機関と連携しながら、取組内容等を改善していくことで、高い評価を得ることができたと考える。今後も本取組を継続・深化させていきたい。	A	A
	⑤生徒への思いやりについて 保 生96 職	A	昨年度より1ポイント上昇して（94⇒95⇒96%）96%という高い評価を得た。これは、教職員による対話を重視した生徒との関わりと、生徒の活躍や良いところを発見し、それを生徒指導や進路指導等に反映できている結果であると捉えている。	A	A
	⑥生徒への期待について 保 生90 職	A	昨年度より3ポイント上昇して（83⇒86⇒90%）90%という評価を得た。概ね我々が生徒に抱いている期待を生徒も受け止めてくれていると考える。今後も引き続き、期待を持って生徒とともに学校づくりを進めていくが、その過程で我々の期待感が生徒の重荷にならないよう注意していきたい。	A	A

⑦生徒の活躍・貢献について 保 生98 職	A	昨年度より1ポイント上昇して(93⇒97⇒98%)98%という高い評価を得た。これは、生徒が学校生活を主体的に取り組み、生徒会活動や部活動等において、日々の活動の成果を実感できているからだと考えられる。引き続き、生徒自らが活躍・貢献できる環境作りに努めていきたい。	A	A
学校関係評価者による意見	特になし			

【総務関係：保護者】

- ①Q 4 保護者に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている
 ②Q 5 保護者に対して、学校便り、メール配信などによって、学校の情報は適切に伝えられている

【総務関係：生徒】

- ①Q 4 生徒に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている
 ②Q 5 生徒に対して、学校便り、メール配信などによって、学校の情報は適切に伝えられている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
総務関係	①災害・非常時の対応について 保90 生94 職100	A	回答1・2の割合は昨年比、保護者90%→90%、生徒94%→94%、職員100%→100%であった。昨年と同じ結果が得られ、緊急時の対応はある程度理解を得られたと思われる。 今後も防災体験学習や西翔暦などをおして確認を怠らず、生徒の安全にかかわる行事などの充実に努めたい。	B	B
	②学校情報の伝達について 保97 生96 職98	A	回答1・2の割合は昨年比、保護者96%→97%、生徒96%→96%、職員100%→98%であった。昨年度の比較から全般的に理解を得られていると思われる。 昨年度からは、積極的に学校メールも活用し、学年だよりも保護者の皆さんの目に触れる機会が増えたものと思われる。 今後もPTA役員会で話題として取り上げたり、西高実況中継、HP、PTA広報誌などで学校の情報を発信していきたい。	A	A
学校関係評価者による意見		・①災害・非常時の対応について 保護者の肯定的な評価は90%と高い評価ではあるが、「よくあてはまる」が30%と低い水準にある。災害非常時の連絡・引き渡しなど、詳細を保護者に伝える方法を検討する必要がある。			

【学習指導：保護者】

- ①Q 6 生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている
 ③Q 7 科目選択や学習の取り組み、評価規定の確認に関して、シラバス（学習の手引き）が活用されている

【学習指導：生徒】

- ①Q 6 生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている
 ②Q 7 科目選択や学習の取り組み、評価規定の確認に関して、シラバス(学習の手引き)が活用されている
 ③Q 9 本校の教育課程や選択科目は生徒の進路に適している

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導関係	①学ぶ意欲を引き出す授業について 保93 生96 職100	A	(保護者) 92%(R5)→93%(R6) →93%(R7) (生徒) 90%(R5)→94%(R6) →96%(R7) (職員) 100%(R5)→100%(R6) →100%(R7) 極めて高い水準である。授業者が授業の振り返りの時間等を活用して、生徒の困り感をすくい取る努力をしていることや、生徒に対して様々な配慮をしていることの現れであると理解している。引き続き研鑽を積んでいきたい。	A	A
	②シラバスの活用について 保94 生95 職93	A	(保護者) 90%(R5)→94%(R6) →94%(R7) (生徒) 88%(R5)→90%(R6) →95%(R7) (職員) 92%(R5)→90%(R6) →93%(R7) 高い水準となっている。各教科が構成を工夫し、授業や科目選択で適宜活用していただいた結果ではないか。今年度はデータ化し紙媒体を廃止したが、マイナスの影響は大きくない様子である。	A	A
	③教育課程・選択科目について 保 生99 職100	A	(生徒) 94%(R5)→97%(R6) →99%(R7) (職員) 81%(R5)→100%(R6) →100%(R7) 新学習指導要領の教育課程の課題が顕在化してきたことに対して、随時対応してきた。引き続き本校に相応しい教育課程を検討していく。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【進路指導：保護者】

- ①Q 8 生徒の進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている
 ③Q 9 「進路の手引」はお子様の進路実現のために役立っている

【進路指導：生徒】

- ①Q10 生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている
 ②Q11 課外講習は、生徒の進路希望実現のために役立っている
 ③Q12 「進路の手引」は、進路希望実現のために役に立っている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
進路指導関係	①進路目標の明確化について 今 保94 生97 職95 昨 保92 生95 職100	A	昨年度同様の高い評価が得られた。 年に春秋と2回設定している面談期間においても、成績や進路希望等に関する情報を参考にしながら面談できるよう、進路部から担任団へ情報提供しており、引き続き扱いやすい情報を提供していきたい。また、適宜個別の面談を各学年で実施して頂いていることも、この項目の評価に対して着実に奏功したと考える。	A	A
	②課外講習について 今 保 生97 職98 昨 保 生96 職98	A	昨年度同様の高い評価が得られた。 昨年度に引き続き、生徒の実態・希望、および狙いに応じて、補習的なものから、強い進学希望者対象のものまで、各学年で実施できたため、生徒・教職員どちらにとっても有為なものとなることができたと考える。進路希望および次回の模試との関連性を意識して実施できていることも、効果的だったと考える。	A	A
	③「進路の手引き」の活用について 今 保94 生96 職98 昨 保90 生92 職100	A	特に保護者・生徒の評価は昨年度以上によいものとなった。三者面談や保護者進路説明会などで活用されており、特に指定校推薦の仕組み等に保護者・生徒とも興味があるようである。総合型選抜や一般選抜に関して、卒業生のデータや体験記といったものからモチベーションにつなげられているケースもあるようなので、引き続き、蓄積と整理、フィードバックを進めていきたい。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【生徒指導：保護者】

- ①Q10 生徒に対して、挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている
- ②Q11 学校として、いじめの問題に対する取組方針が保護者と共有されている
- ③Q12 学校として、部活動は活発に行われている
- ④Q13 学校として、生徒会活動は活発に行われている
- ⑤Q14 お子様にとって、有意義な学校行事がある

【生徒指導：生徒】

- ①Q13 生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている
- ②Q14 学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる
- ③Q15 学校として、部活動は活発に行われている
- ④Q16 学校として、生徒会活動は活発に行われている
- ⑤Q17 生徒にとって、有意義な学校行事がある
- ⑥Q18 交通ルール遵守の指導が行われている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導関係	①基本的生活習慣の確立について 保92 生92 職80	B	概ね良好ではあるが、まだまだ改善の余地がある。生徒会や部活動などの活動を通して、生徒自ら基本的生活習慣の確立に向けた活動を活性化させていきたい。	A	A
	②いじめ問題に対する早期発見と取り組みについて 保77 生90 職100	A	生徒の評価は3ポイント上がっているものの、保護者に対する改善が必要である。来年度は、保護者に対するいじめアンケート等の実施も検討していきたい。	A	A
	③部活動の活発化について 保95 生98 職98	A	運動部離れが各校で進んでいる中、学校規模に対して本校の運動部の活動は著しく良好であり、学校の活性化に寄与している。文化部においても、各種コンクールや文化祭の発表で派手さはないものの、しっかり活動している様子が伺える。今後も、この雰囲気継続させていきたい。	A	A
	④生徒会活動の活発化について 保96 生97 職100	A	ここ数年、生徒会の活動が目に見えて活発となっている。本校で開催された生徒会の交流会においても、他校と比べるわけではないが、生徒会の雰囲気や積極性が素晴らしいものであった。来年度以降も、生徒が積極的に活動する支援や見守りを続けていきたい。	A	A
	⑤学校行事について 保98 生100 職100	A	生徒・職員ともに100%の評価になっており、有意義な学校行事が展開されている。来年度以降も、行事を通しての成長を促すとともに、絆づくりに努めていきたい。	A	A
	⑥交通ルール遵守の指導について 保 生93 職90	B	事あるごとに注意喚起を行っているが、事故等が起こらないようにするための、また、事故が起きた時の対処などの予防的指導を来年度以降積極的に行っていきたい。	A	A

学校関係評価者による意見	①基本的な生活習慣の確立について 保護者、生徒については概ね高い評価は得られているものの、職員との評価に10数%のひらきが見られる。職員間の共通理解を図りながら生徒指導を進めていく必要があると思われる。
	⑥交通ルール遵守の指導について 4月から自転車乗車中の法律が改正されることから、年度初めに生徒には交通教室などの対応が必要ではないか。

【保健厚生関係：保護者】

- ①Q15 学校として、生徒のケガや病気に適切に対応し、健康の保持増進を図っている
②Q16 生徒に対して、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている

【保健厚生関係：生徒】

- ①Q19 学校として、生徒のケガや病気に適切に対応し、健康の保持増進を図っている
②Q20 生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている
③Q21 ゴミの分別処理・ゴミ拾いなどの校舎内外の清掃や環境美化の指導に取り組んでいる

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
保健 厚生 関係	①健康の保持増進について 保98 生98 職100	A	・1月末時点で保健室利用者は1,856人となっており、昨年度より500人ほど減少しているが、各学年心身の不調を抱えている生徒は一定数いるので、今後も丁寧な問診や個別指導を行い、生徒の健康問題の改善に努めていきたい。 ・健康診断で異常が見られた生徒の受診率が低い状態。自分事として捉えられるよう、事後指導にも力を入れていきたい。	A	A
	②教育相談について 保95 生98 職100	A	保健室対応の中で、悩みや心の不調が長期化する生徒については、心の面だけでなく身体症状も併せて見ている。様子が気になる生徒や、深刻なケースには、SCやSSWと連携を取りながら対応している。また、担任を中心とした教員間での情報共有も日々行っている。	A	A
	③環境美化について 保 生93 職98	B	教員数と清掃分担区のバランスが悪い部分もあり、清掃が行き届かない部分も見られた。引き続き、清掃分担区の見直しや、清掃方法も検討していきたい	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【事務関係：保護者】

Q17 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている

【事務関係：生徒】

Q22 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
事務関係	①施設・設備の整備について 保86 生90 職100	B	教職員による毎月の安全点検のほか、技師による日頃の確認により、早期発見・修繕を行っている。創立40年を超え、経年劣化による破損箇所が増えており、危険箇所の補修を優先して行っているため、希望する施設充実までは進んでいない状況である。今後も生徒・教職員が共に安心安全な環境で活動できるよう、施設整備をしていきたい。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
①災害・非常時の対応について	<p>年度初めに、災害・非常時の対応について家庭には連絡をしているものの、全体的には浸透していない様子がうかがえた。</p> <p>今後は、常時非常災害時の情報には触れられるように、HPの活用やデジタルファイルのスマホ保管などを検討していく。</p> <p>また、PTA役員会など関係会議の際に話題として取り上げるなど、学校側以外の意見を参考に改善・検討していく。</p>
②基本的な生活習慣の確立について	<p>学校側職員の共通理解が大切であることから、新しい職員を迎えた早い段階で生徒指導に関する研修会を開くなど、共通理解を図っていく。</p>
③交通ルール遵守の指導について	<p>昨今、自転車ヘルメット着用の努力義務化、自転車乗車中のスマホ使用の厳罰化など、生徒にかかわる交通法規の改正が行われており、保護者は子供たちがどこまで把握しているかが気かりのようである。</p> <p>年度初めの集会等を利用し、教員からの説明、例年行われている5月初旬の交通講話での具体的な説明などを実施し浸透させたい。</p> <p>また、今後も交通事故予防の観点から、情報収集し継続的に生徒への情報提供を行っていく。</p>